

半世紀前からの

「今、蘇る『文集』」

贈り物

蒲郡市民間大使
内田雅敏プロフィール
水竹町生まれ
東京弁護士会所属
著書「憲法読本」「戦後補償を考える」など多数

——前号のあらすじ——

内田氏は、届いた文集を読み始めました。彼の脳裏には、当時（昭和28年ごろ）の懐かしい町の風景が走馬灯のように蘇ってきました。

かつて、蒲郡の海岸線が美しく、鉄道唱歌に謳われたこと。そして、現在も市のシンボルである「竹島」のことなど。

町の南部、海に面した丘の上に城郭風の屋根を持つしゃれたホテルがあった。

たいていの子どもが小学生のころ、図工時間に一度はそのホテルを写生した。ホテルの対面に「竹島」と呼ばれる小島があり、そこに竜神が祭られ橋が架けられていた。ホ

テルと海と竹島、なかなかの光景であり、田舎町で唯一自慢できるものであった。

敗戦直後からこのホテルを含む海浜一帯が「進駐軍」によって占領され、町民たちが海や神社に行くには、張り巡らされたフェンスの外側を海沿いに回り道をしなければならなかった。

しかし、ある日突然、町のシンボルがかえってきた。このことを祝って、餅投げ大会が行われた。半世紀以上も前

のことだが、このときのことは今でもよく覚えていて。幼い弟と一緒に拾いに行ったのだが、投げられた餅にドツと大人たちが殺到し、7歳の子どもでは1つも拾えなかった。それどころか、転んで泥だらけになり、弟と2人半べそをかいていた。その当時のことを思うと今でも自分のことながら可愛そうで涙が出てくる。

いささか話がそれたようだ。「文集」にもどろう。

つづく

みんなで考えよう！

蒲郡のまちづくり

「都市計画マスタープラン」

まちづくりを考えると、なると…、住みやすいまちがいいな。

そうじゃな。じゃ、今回の施設の1つ、下水道のことを話そうかのん。下水道は、汚れた水をきれいにしたり、雨水を川や海へ誘導したりす



みかん仙人
すなメリー

る大切な設備なんじゃが…。すなメリーは、社会見学で下水処理場に行って、話を聞いたことあるじゃろ。

うん。でも、あんまり覚えてないんだ。エヘッ。

あかんのん。下水道はな、家庭などで汚れた水を集める污水管と、雨水を集める

雨水管があつてな、道路などに別々に埋められているんじゃ。ほんで、污水管で集められた水は、下水処理場できれいになつて、川や海に旅立っていくんじゃ。

旅立つって水が旅をするの？

そうじゃよ。水はな、空から雨となつてふつてきて、川になり、それを人間が使って汚すんじや。汚れた水は下水処理場などできれいにして川や海に戻す。それが蒸発して

雲になり、雨が降る。これを「水の循環」というんじやが、水が旅をしとるようじやろ。わしらんとこに戻ってくる事を考えながら、水を大切に使うにやならんぞん。

下水の役割ってたいへん重要なんだね。

そうじゃ。だで、整備をおろそかにしちゃいかんが、蒲郡の下水普及率は55.8%だで、まだまだだのん。

【下水道課】 ☎66◆1138

【計画開発課】 ☎66◆1142